

令和4年度 移動等円滑化評価会議 中部分科会 議事録

(日 時) 令和4年7月26日(火) [WEB開催]

(場 所) 名古屋合同庁舎第1号館 11階 運輸大会議室

(委 員) 会議資料のとおり

(事務局) 中部運輸局、中部地方整備局

※ 今回、新型コロナ感染防止に配慮しつつ、議事を進行させて頂きました。そのため、資料の記載内容に関する質疑・回答は、極力後日とさせていただきます。

\*\*\*\*\*

【バリアフリー推奨取組事例の発表】

■ 「三重県におけるユニバーサルデザインのまちづくりについて」

・発表者：三重県 子ども・福祉部 地域福祉課 楠見 様

■ 「静岡県におけるユニバーサルデザインの取組について」

・発表者：静岡県 くらし・環境部 県民生活課 志村 様

■ 「共生社会の実現に向けた取組みについて」

・発表者：福井県 健康福祉部 障がい福祉課 杉本 様

■ 伊勢志摩バリアフリースターセンター

静岡県の発表にて、みをつくし学校の紹介があったと思うが、東海地方公立高等学校事務職員研究協議会に参加し講演をした際に、静岡県は、学校においては耐震に力を入れており、バリアフリーは遅れているという話をされていたため、その時に、みをつくし学校の話をしていたらもっと広がったのに、もったいないと思った。他にもこのような事例等が公表されていれば、教えていただきたい。

■ 静岡県

静岡県では第6次ユニバーサルデザイン推進計画を策定した。55ページに県立学校の取組みとして紹介している。

■ 有識者 村井准教授

年数を経過すると、現状と合わなくなってくる、別の対応が必要になることが出てくる。目標を達成したで終わらず、その後どうなったか、チェックや検証、さらなる対応をしっかりとやるともっと良くなっていくと感じた。

県の取り組みについては、子ども達は感度がよく、体験等を素直に感じ取ってくれるため、そういった取り組みを続けていってくれればと感じた。

#### ■磯部 分科会会長

自治体からは、施設管理について、工夫しているという話があったが、行政が色々な施設を管理する中での工夫が当たり前になってきたという話だと思った。ハート・ハード・ソフトという話があったが、結局は人。人を育てる取り組みがいろいろな所であると感じた。学校施設、教育の内容も含め、ユニバーサルデザインが普通に出来ていく取り組みがなされてくれば良いと思う。自治体の中でバリアフリー担当が孤立することなく、いろんな部局に相談し、組織の中でバリアを作らず一緒にやっていく体制ができると良いと思う。

#### 【参加委員から提出されたご発言および意見交換内容】

案内表示のあり方について

#### ■有識者 村井 准教授

基本的には、一つの案内標識にいろんな手段が入っているべきではないかと感じる。文字+音声+記号+絵等、色々な組み合わせが考えられる。デジタル技術も進んでいるため、以前なら大変だったことも割とやりやすくなっている部分もあると思う。いろんな手段でまかなっていくと災害時の避難にも生きてきたりするため、大事であると、資料や実体験から感じているところである。

#### ■磯部 分科会会長

案内は、目で見て分かる、聞いて分かる、触って分かる、ということもあるし、よくあるのは人に頼るということ。困っている状況をどうお知らせするか、それを誰がどのように整備していくかが大きく課題になると思う。

情報通信の話も出たが、時々困りごとが起きる。この間は、大手の電話会社の回線が約3日間使えなかったということで、鉄道や飛行機も飛ばなくなったという話もあった。1つのものに頼っているといざというときに使えない。まさに複数使える状況が必要になってくる。それとユニバーサルデザインがどう絡むかということ、結局みんな困ったということ。困りごとを助けることがユニバーサルデザインなため、情報通信トラブルがないようにしていくことも大事である。障害者の問題ではなく、社会全体の共通な話題にしていくと色々なサービスが生まれてくると思う。そういった働きがけを皆さんも一緒にやっていくとよいと思った。

#### ■伊勢志摩バリアフリーツアーセンター

見る・聞く・触る・人に頼る・ネットで見ることによって情報を得ると思う。

人に頼るといのは最終手段であって、一番頼りになるところかと思うが、人に頼るといを探ることが多い。例えば、駅ではホームに駅員さんがいない所が多くなっており、まず聞く人を探ることが増えたと思う。また、聞くことで感じるのは、目の前に人がいても、声をかけても、ネットで解決しようとするため、聞き方というのも、もっとコミュニケーションがとれると良いと思う。聞くことに対して抵抗のある方達もいる。バリアフリーの研修をよくするが、観光施設の皆さんには、施設にないバリアフリーの整備を聞かれたとしても、「ここにはないです。」だけではなく、施設の近くも把握し答えられるようにしておいてくださいというお願いをしている。観光施設に限らず、聞かれることを想定して、聞かれたときにその周辺にはどんな設備があるのかということ、自分の働いている職場周辺や住んでいる周辺のことを知っておくと、よりいっそう困っている人を助けられる確率が高くなるのではと思う。そのためには、情報発信をしていくと、助かるのではないかと思う。

#### ■磯部 分科会会長

各管理者が管理している所だけでなく、周辺も併せてやらないと正しい情報提供にならないという一般論に繋がると思う。情報機器を上手く使えば、利用者が情報を集めて利用者に発信するというような仕組みもある。そういった、自分が知ったことを皆にお知らせしていくことを上手くやっている団体も増えてきているため、そういった風に繋がっていくのも一つの方法だと思う。管理者にも一層努力してもらおうが、管理者頼みにならず、広く情報を集めみんなで共有していくと良い。

#### ■事務局

「鉄道駅バリアフリー料金創設について」

・発表者：鉄道部監理課

#### ■磯部 分科会会長

交通バリアフリー法ができたのは西暦2000年。そこから22年経ち、薄く広い負担という言葉が出てきた。エレベーターは皆が使い、障害者高齢者だけの設備ではないため「皆から負担していいよね。」という話題から、料金の値上げの根拠を整理したということになる。だが、鉄道駅バリアフリー料金という言葉が大きく出ているため、勘違いされている方もいるかと思う。今後、運用していく上でどういったことに注意、関心を払うべきか意見をいただきたい。

#### ■有識者 村井准教授

エレベーターが皆にとって使いやすいというあたりが大事だと思う。鉄道駅バリアフリー料金という制度が、最終的にどう整備されて、今まで使いにくかった所がどう使いやすくなるかをビジュアル的に示す工夫が必要だと思う。各鉄道事業者にとって運賃の値上げはとても気を遣うところでもあると思う。行政も含め社会全体にとって、良いことになっていくため、結果を上手く示していくことに取り組んでいく必要がある。

#### ■静岡県聴覚障害者協会

広く薄くという考え方は、とても良いと思う。例えば、携帯電話にしてもユニバーサル料というものがあるため、そういったイメージでとらえたら良いのかと思う。バリアフリー料というものが携帯とは違うのはどうしてかというのと、ろう者は、聞こえないことも分からない障害なため、配慮が分からないというような人が多い。今回の資料を見ても、ろう者に対しての配慮は少ないと感じた。手話に対しての色々なことはあると思うが、バリアフリー料を取った後で、ろう者にこういうサービスがあったらいいのではないかというものがあれば教えていただきたい。

#### ■磯部 分科会会長

ホームドア、エレベーター、トイレ等の車いすの方へのサービス、視覚障害者の方へのサービスはある。しかし聴覚障害者に対するサービスってないよね、という話はよくある。

#### ■事務局

バリアフリー料金の対応設備の中には、文字や音声による案内設備、標識が対象に含まれているため、聴覚障害者の方へのサービスもないというわけではない。

#### ■静岡県聴覚障害者協会

手話タブレットを駅に置いてほしいと考えている。本当に簡単なやりとりの際、わざわざ通訳者を呼んでということではなく、簡単な手話が伝えられるようなもの、タブレットを通じて簡単にやりとりできればと思う。

#### ■磯部 分科会会長

ホームドア、エレベーターは大きなお金がかかるため、皆からお金を集めたいと思うのだが、金額が大きくなるとも工夫することでいいサービスが出来るものもある。そういったことを積極的にやっていただきたいと思う。そういう費用

としても使っているのではと思う。大きいものだけでなく、必要なものや駅関係者の研修教育に使うという方法もある。

鉄道駅バリアフリー料金という言葉にしているのがまずい。個人的にはユニバーサル料金という名前にした方が趣旨に合っていたのではないかと思った。

#### ■愛知県精神障害者家族会連合会

精神障害者の割引について、身体、知的障害については割引されても、精神障害は割引されないため、割引を求めている。来年、近鉄が割引ということで話が進んでいるのだが、全国に広まった際、障害によってどう割引していくのか、基準がわかりにくい。バリアフリーやユニバーサルデザインは、障害の特性によって個別に応じたものであり、割引は、平等にしようとするとは非常にわかりにくい、かつ悩ましいと思う。ぜひ調整が上手くいくように望む。今日のような会議を行い、多様な業者が考えを固めていくことによってユニバーサルデザインが確立していくと思う。

#### ■磯部 分科会会長

割引も大事な料金制度。全国的に議論をしていく必要があると感じる。まだ中部地方では新しい料金制度は確立されていないが、可能性は大いにある話。

今日は最近の状況を説明いただいた。新しいバリアフリー法が出来たため、徐々にそれに向かって進んでいくということ。

後半では、案内、サインについてもさらに工夫が出来そうな感触がつかめた。鉄道料金については、料金の話になるため、色々なご意見があるが、国民の理解が必要。役に立つものを作っていただきたい。駅整備は利用者全員から評価を受けないといけない。バリアフリー法では、バリアフリーの道は最低一カ所あればよいとなっているが、大きい駅では一カ所では足りない。広く薄くお金を集め、皆で評価しようとする、大きい駅ではいくつもバリアフリールートがあっても当然だという意見が出てくるかもしれない。そのような意見が欲しく、皆さんを味方にしたい。評価が広まってくるとうれしい。

#### ■有識者 村井准教授

バリアフリー化は意識しなくてもなっていることが必要。これからも、もっと推進していく必要があるため、上手くいっている事例は褒め、上手くいっていない事例があったとしても責めずに、どうすれば改善出来るのか、技術的、費用的、行政、研究者、当事者の方による助言によって再改善できると良いと思う。